

平成6年度普及活動計画

担当者名：瀬底正武

課 題	実施時期	実施場所	対 象	協力者	普 及 課 題 活 動 内 容
1 生産活動に関する課題 ★技術改良試験 (糸モズクフリー糸状体 培養) 『フリー糸状体マニユア ル作成』	4月～3月	糸満、知念	生産グループ	市、漁協	。栄養塩を使用した糸モズクのフリー糸状体保存・培養を実施し安定した種保存の技術確立を目指す。 。方法は、(1)水試手法の同化系細胞の高塩分処理法(新サイクルと言うようだが)、(2)寒天培地法の二方法がある。前者は、高塩分と低照度刺激により種を形成発芽させる。後者は、寒天培地(培養液添加)に生藻体を載せると20日前後には、藻体の表層が崩壊し同化系細胞が栄養塩の刺激により糸状体が形成される。(3)ワカメの応用で直接藻体により糸状体を採種し保存を試みる。今回は、前任者の諸見普及員が成果を上げつつある。(2)の手法を主に、(3)についても試みたい。
クビレオゴノリの果胞子 付による養殖・調査	4月～3月	糸満	生産グループ	村、漁協	。有用藻類の増養殖については、積極的な胞子付けが研究されているがオゴノリ類では数年来各県の水試等によって藻体の挟みこみによる延縄式養殖試験が実施されてきた。胞子付け試験としては、小味山(大分水試)の試験があるがいずれも積極的な胞子付けから集約的な養殖までには至っていない。 。昭和62年～平成元年までの3年間技術改良試験を導入、平成2年度以降は定着試験を導入し実践指導を行ってきたが養殖生産までには至っていない。 。これまでの経過を総点検しどこに問題があるか究明したい。すでに、豊見城村役所の協力を得て4月25日より水試飼育棟で実施している。 。方法は、『貝殻コレクターによる垂下養殖』採苗、中間育成、養殖と従来の手法で実施。

★崩壊：細胞の組織片が遊離細胞に分かれる過程、表層細胞：体表面を覆う組織

課 題	実施時期	実施場所	対 象	協力者	普 及 課 題 活 動 内 容
イバラノリの四分胞子付け・藻体結着による増殖 ・調査	10月～3月	本部(備瀬)	生産者	町、漁協	- イバラノリは、北部地区では昔からモーイー豆腐として親しまれ現在でも冠婚葬祭にはなくてはならない海藻のようである。本部では、天然モーイーを収穫しスーパー、食料品店に出荷しているが原藻が絶対量不足しているようである。 - 昭和56年～58年にかけて、実施された実証試験の成果を踏まえ、本部駐在との連携をとりながら実施したい。 - 方法は、(1)インシュロックタイによる網地への藻体結着法、(2)網地への四分胞子付け(付着基質の選定試験が必要)
その他藻類に関する増殖 殖指導	9月～3月	生産地区	生産者	市町漁協	ヒトエグサの養殖、モズクの養殖、ヒジキの株移植等時期的な養殖種については、必要に応じて巡回指導で対応したい。
モズク、ヒトエグサ養殖 生産者会議の開催	7月・9月	普及所	生産者	漁 協 漁 連	品質管理、流通等についての意見交換の場として、年1回開催し生産者との連携を図りたい。『H6年度は、ヒトエグサの販売流通について』意見交換。
2. 担手育成に関する課題 県漁業士会への対応	4月～3月		漁 業 士	市 町 漁 協	- 漁業士会結成後の活動状況、位置付け等見直しの時期にきているようである。 - この組織は、認定事業と平行して結成したため普及所内での考えで組織化された。 - したがって、漁業士の意見が十分に反映されていない面が多々あるかとおもわれる。 - 見直しにあたっては、漁業士の意見を全面にだして活動しやすい組織にするには何をすればよいか論議を重ねる必要がある。
漁協青年部活動 (巡回移動相談への対応)	4月～3月	漁 協	青年部	市 町 漁 協	- 昭和61年度からスタートした巡回移動相談は、平成3年度から実質的に活動停止の状況になっている。 - 普及活動の基本は、現場特に漁協青年部等の担手の育成が大変重要な役割を担っている。常に青年部との接触を密にし、浜の相談相手とし

課 題	実施時期	実施場所	対 象	協力者	普 及 課 題 活 動 内 容
漁青連との意見交換	6月22日	漁 連	事 務 局 員		ての普及職員の役割は大きいものがある。昭和61年から4年間巡回移動相談をとうして、青年部活動の活性化を図るには何をなすべきかを模索しながら、それなりの総括（平成2年度活動報告所）をしたつもりだが、現場では受け入れがたいものだったのかその後の状況は知りよしもない。いずれにせよ、実績発表大会と関連づけるためにも漁協青年部、漁業士との関係を深める努力をする必要がある。 ・青年部活動に入る前に、漁青連役員、事務局等と青年部活動についての意見交換を実施する。 ・実施に当っては、青年部活動状況を把握した上でリーダー研が可能かどうか検討したい。
3. その他の活動課題 普及課題基本計画作成	4月～3月			検 委 員 会 討 会	・『普及計画のねらい・性格』普及員の活動を効率化し、思いつきの活動や公開性のない独善的な指導を改善し、漁家の人々が自分で考え、決定し、実行するようになるための道順としたい。 ・計画を立てることによって、究極的にめざしているものは、それが漁業者の技術・経営能力を向上させ、さらには、その漁業所得の増大を図る。 ・大枠の計画が出来た段階で、最終的には担当地区ごとの計画を作成することになる。
漁業マップの作成	4月～3月	担 当 地 区	普 及 員	検 委 員 会 討 会	・担当地区ごとに一目で分る漁村の紹介をガイドマップ風にまとめたい。 ・具体的な作成要領等については、上記計画検討委員会で内容等検討したい。

平成6年度普及活動計画

担当者名：多和田 真 周

課 題	実施時期	実施場所	対 象	協 力 者	普 及 課 題 活 動 内 容
タイワンガザミの 種苗放流指導	6～8月	与那城町	各地区支部	水産振興課 水産試験場 栽培漁業センター 与那城町役場	栽培漁業センターで種苗生産・中間育成されたタイワンガザミ稚ガニをトラックに設置された活魚水槽に収容、陸路トラック輸送後、海中道路北側（放流海域設定：水試）へ稚ガニを放流する。放流作業は各支部から組合員を招集、放流・調査に対して側面から協力。
ハマフエフキの 中間育成・種苗放流指導	7～11月	中 城 湾	中城沿振協	水産振興課 水産試験場 栽培漁業センター 中城沿振協会員	栽培漁業センターで種苗生産されたハマフエフキ稚魚をトラックに設置された活魚水槽に収容、陸路トラック輸送後、漁港内中間育成施設（場所・放養数未定）に放養、標識装着サイズ可能な尾叉長100mm前後まで養成を実施、腹鰭抜去作業後、中城湾へ放流事業を行う。腹鰭抜去作業への積極的な参加、標識放流魚の速やかな報告等協力体制の強化啓蒙活動の推進を図る。 ★ハマフエフキ稚魚の放流事業は北部海域でも毎年、15万尾の放流予定数で実施されており、水高の栽培漁業の実習・関係市町村及び漁協・組合員が参加する放流事業については北部駐在とも連絡をとりながら対応していきたい。
魚類養殖指導	周 年	与那城町	伊 計 支 部 魚類養殖グループ	水産試験場 与那城町役場 与那城町漁協	与那城町漁協では宮城島地先沖で1名、伊計島地先でマダイ、ハマフエフキを対象とした5～6名の魚類養殖グループがある。養殖経験年数も浅く、他漁業との兼業経営であるため、順調な養殖経営とはいえないようである。漁協の担当者と連携をとりながら、特に魚病関連による歩減りを押さえながら魚病予防を重点目標に巡回指導を実施する。
シヤコガイ放流指導	周 年	那覇地区	各地区支部	水産振興課 水試八重山支場 那 覇 市 役 所	那覇地区漁協は小型鯖延縄・一本釣り漁業主体の漁業形態が主流を占めているため、今まで栽培漁業関連の事業は皆無であった。しかし、大型船以外に、くり舟漁業主体の沿岸漁業者が3支部を結成し種々の活動を実施しているが、今回初めてシヤコガイ放流を6月に実施し、栽培漁業の展開をはかる計画が予定されている。 放流場所の選定、放流方法、放流後の管理等について指導助言していきたい。

平成6年度普及活動計画

担当者名：新里 勝也

課 題	実施時期	実施場所	対 象	協 力 者	普 及 活 動 内 容
魚類養殖指導	4月～3月	沖縄本島地区	生産者等	漁 団 市 県 協 体 町 関 等 機 関	昨年度も種苗の網入れから、品質づくり、魚病対策、販売指導等を勉強会、交流会、生産者会議等を通して実施した。今年度も同様に行うが数地区を選定し、法人化等による経営拡大も視野にいたれた指導を行うとともに、全体としてのレベルアップを図るための調査指導を実施する。
新技術定着試験	4月～3月	大 宜 味 村		大宜味魚介類 生産組合 羽地漁協 大宜味村 県水産試験場	ハタの試験養殖を継続して実施する。昨年の供試魚を継続養殖しデータを得るとともに、今年度も稚魚を入れ、昨年の課題である歩留まり、成長の向上を図る。
漁業士認定事業	10月～1月	全 県		漁 団 市 県 協 体 村 関 等 機 関	年数人程度の推薦が予想されるので、青年漁業士、指導漁業士をバラス良く認定したい。
漁 業 士 会	4月～3月	全 県	漁業士、他	漁 団 市 県 協 体 村 関 等 機 関	漁業士会ひいては漁業士がどうあるべきか、漁業士自身のニーズ及び漁業士が求められているニーズを踏まえ、皆で話し合いながら進めていく。
地域活動指導	4月～3月	読 嘉 北 宜 浦 北 中 佐 知 谷 手 納 谷 野 添 中 城 敷 念 村 町 町 市 市 市 村 村 町 村	生産者等	漁 団 市 県 協 体 村 関 等 機 関	継続担当地区についてはこれまでどおり、地域ニーズに答える形での指導を実施する。 新規担当地区においては、地域の状況等を早急に把握し、普及活動に移していく。 具体的なメニューとしては、活性化計画、生産部会活動、ヒメジャコ養殖・放流等を勉強会、交流会等を通して実施する。

平成6年度普及活動計画

担当者名：奥原哲夫

課 題	実施時期	実施場所	対 象	協 力 者	普 及 課 題 活 動 内 容
漁家経営指導	4月～3月	与那原町	与那原町漁協 婦人部	与那原町漁協 与那原町役場 南部農改普及所	生活改善普及員と提携し、与那原町漁協婦人部を中心に営漁簿・家計簿の記帳を指導していく。その中で記帳を通して診断方法などを学習会を随時開いて指導する。
漁協経営調査	4月～3月	与那原町	与那原町漁協 婦人部	与那原町漁協 与那原町役場 南部農改普及所	漁家経営指導との絡みで、漁協の経営調査を行い、婦人部にも漁協運営に対して理解を深めてもらう。
婦人部活動指導	4月～3月	与那原町	与那原町漁協 婦人部	与那原町漁協 与那原町役場 南部農改普及所	婦人部の持つ意味及び役割並びにリーダーのあり方等学習会を通して指導する。
公害調査指導	4月～3月	9. 地 点	漁 業 者	各漁業協同組合 市 町 村	赤土の汚濁調査を通して赤土の汚染影響の加害内容を理解させる。
資源管理型漁業	4月～3月	本島中南部	漁 業 者	各漁業協同組合 市 町 村	ソデイカ資源とウニ資源の管理の必要性、これからの資源管理型漁業のあり方等について理解を深めさせる。
漁船漁業指導	4月～3月	本島中南部	漁 業 者	各漁業協同組合 市 町 村	技術面での情報収集と情報提供を行う。加えて経営調査に基づく改善指導を行う。
沿岸漁業改善資金指導	4月～3月	本島中南部	漁 業 者	各漁業協同組合 市 町 村	同資金の利活用推進を行う。

平成6年度普及活動計画

課 題	実施時期	実施場所	対 象	協力者	普 及 課 題 活 動 内 容
主 担 業 務					
漁村婦人はたらライフ事業					
(中) 未利用魚等加工事業					当初予算化ができなかったので補正対応、基本的に補正後に執行。
(小) 漁村婦人地域漁獲物 利活用講習会	7月～3月	伊平屋村	婦 人 部	漁 協、村	講師をしょうへいしてもずくの加工講習会を行う。
(中) 営漁指導事業	7月～3月				講師をしょうへいして営漁簿記帳の講習仕を行う。
(小) 営漁簿作成講習会					海藻類利用加工先進地の視察
(中) 交流学習事業	11月～2月	長 崎			交流学習の報告書を作成。
(小) 交流会	3月				
報 告 書 作 成					
北部地区実践グループ活動 報告会	9月	本部駐在	青 壮 年 部 婦 人 部	漁 市 町 村 協	各漁協の下部組織、実践グループの活動状況を発表してもらい、情報交換するとともに、実績発表大会で発表できる人材の発掘をめざす。

平成6年度普及活動計画

課 題	実施時期	実施場所	対 象	協力者	普 及 課 題 活 動 内 容
地区担当業務					
栽培漁業定着支援業務	周年	北部地区	漁 協 等	水産試験場 栽培センター 水産振興課	背景: 第三次振興計画では漁船(沿岸・沖合)・養殖とともに栽培漁業が三本柱の一つに位置づけられており、普及事業としても県施策との整合性上、取り組みを強化していく必要がある。しかし、予算的裏付けはほとんどなかったが、今年度は振興課からもらうことになった。 到達目標: タカセガイの調査については振興課と協議 その他については、漁協独自で放流、調査が可能になるよう技術、情報指導を行う。 方法: 放流事業主体の計画作りの支援、調査方法のアドバイス、実際の調査指導。調査の取りまとめ指導。対象種としては、タカセガイ、シラヒゲウニ、ハマフエフキ。
もずく養殖指導	周年	北部地区	生産部会等	漁 協	背景: もずく養殖においては、イトモズクの種保存技術について今後普及指導の必要性が残っているのみで、基本的には生産過剰傾向である。生産者の組織化が一豊作時に暴落を繰り返している状況である。 到達目標: もずく養殖指導は漁業者の組織化目的とし、部会の結束をはかる。 方法: イトモズクフリー系状態培養技術の指導に当たってはマニュアルを作成し、漁協と部会の事業として取り組んでもらう。極力個人、無秩序なグループへの指導はしないよう努める。

平成6年度普及活動計画

課 題	実施時期	実施場所	対 象	協 力 者	普 及 課 題 活 動 内 容
その他海藻類養殖	周 年	北 部 地 区	生産部会等		背 景：もずく以外の経営の柱が要請されているが、現在これといった 作目が見あたらない。 到達目標：換金作物として育成可能な海藻の養殖方法に関する基礎的知見 を集める。 方 法：イバラノリ、オゴノリ、キリンサイ、アマノリ等について養殖 試験を行う。
魚類養殖指導	周 年	北 部 地 区	漁 業 者	協 漁	背 景：北部は良い漁場があり、本県の魚類養殖の先進地として伸びて きた。今後生産を伸ばす可能性大である。 到達目標：基本的な養殖技術の習得、魚病発生状況の把握、水産試験場と の連携。 方 法：魚類養殖担当者との連携、学習会の開催。定期巡回指導。
漁船漁業指導	周 年	北 部 地 区	漁 業 者	協 漁	背 景：パヤオ、ソデイカにつづく資源開発（漁法）が求められている が、タチウオ以外には目だ 到達目標：当面、数名程度が着業出来る漁業資源、漁法を見いだす。 方 法：タチウオ漁法の北部地区での導入可能性について、市場調査、 流通調査を実施し、また、他の漁法についても（トビウオ等） 流通面について調査・指導を行う。

平成6年度普及活動計画

担当者名:宮古地区

課 題	実施時期	実施場所	対 象	協 力 者	普 及 課 題 活 動 内 容
1. 生産活動に関する課題 (栽培養殖関係) シヤコガイの養殖及び放流指導	4月～5月	特区 223 号 特区 222 号	平良市漁協	平良市漁協 青壮年部 保良追込グループ	。地撤式養殖の特定区漁業権内での養殖指導、共同漁業権内放流指導。 平成6年第1回種苗配布は4月～5月、漁協実施グループの受け入れ状況、機材等の確認を早急に行う。多良間村は放流海域の要調査。
シラヒゲウニの中間育成、放流指導	4月26日 5月26日	城辺町浦底 上野村 平良市	平良市栽培漁業センター	城辺町 上野村 平良市	。平良市栽培漁業センターが種苗生産したウニの中間育成、放流指導。 4/3に多良間村でセンターが第1回放流を実施し放流効果の高い今帰仁村と比較検討する。今後はウニ礁を中心に7,000個放流予定。島尻地区大規模ウニ礁、大神地区ウニ礁の藻場調査も併せて実施する。
魚類養殖指導	4月～5月	高野地先	平良市漁協 青年部	平良市漁協	。平良市漁協青年部の中に魚類養殖部会を平成3年12月に結成。平成4年からマダイ養殖試験を開始したが平成5年種苗を輸送途中で全滅させ活動が停滞していた。当初は9人、平成6年度は5人でタマンを5万尾養殖する計画。漁業権が荒い場所にあるので、簡易浮沈式生け簀の検討ならびに餌料効率等の養殖指導を行う。
クビレヅタの養殖指導	4月～10月 5月～3月	与那覇湾 伊良部町	平良市漁協 伊良部町	久松漁業研究会 伊良部町	。クビレヅタ漁業権の養殖指導、母藻確保試験陸上養殖の可能性調査。 久松漁業研究会が解散状態にある。宮古の特産種として養殖指導を行う。母藻の確保が課題。養殖施設は水試と連携して指導する。
モズクの安定生産指導	9月～3月 4月～9月	狩保 特区 199 号 栽培センター	平良市漁協	狩保漁業生産 グループ	。糸状体培養技術の普及によるイトモズクの安定生産指導。イトモズク養殖は宮古が発祥地。平成5年度は種保存の失敗、冬場の高水温が原因で大幅減産。フリー糸状体培養方法による越冬保存指導検討。
ヒトエグサの養殖指導	8月～3月 8月～3月	特区 215 号 特区 210 号	多良間村 下地町		。天然採苗による養殖指導。多良間村はH5年から実施。沖縄本島地区は人工採苗に成功しているが、宮古地区では漁業権を取得したばかりで当面は天然採苗養殖指導及び生産グループの結成指導を行う。

平成6年度普及活動計画

課 題	実施時期	実施場所	対 象	協力者	普及 課 題 活 動 内 容
(漁船漁業関係) ソデイカ	4月～5月	城辺町 保良沖	城辺町	浦底漁業 研究会	。ソデイカ旗流し漁法の漁具製作、操業方法の指導を行う。平成5年度の先進地視察である程度漁法は習得している。町予算で漁具費は助成可能。漁船規模が小さいため漁場範囲が限定される。
マグロの鮮度保持定着試験	6月～10月	伊良部町漁協 宮古北沖	伊良部町 漁協	伊良部町漁協 青壮年部	。マグロ鮮度保持を向上させるための肉ヤケ対策を重点に指導する。 。キハダマグロの肉ヤケ現象の防止対策で伊良部漁協の伊良波指導漁業士が開発した水温コントロール方式を検証し普及を図る。
マグロのかぶし釣り漁法	10月～12月	宮古北沖 パヤオ	平良市漁協	平良市漁協 青壮年部	。マグロの遊泳層まで漁具と撒餌を同時に投下するための漁法を指導。 沖縄本島では石巻落とし漁法が主体。マグロの遊泳層は80m～150m。餌の改善も図る。
活餌でのマグロ釣り漁法	7月～9月	宮古北沖 パヤオ	伊良部町 漁協	伊良部町漁協 小型船主会	。マグロ漁獲用の餌を未利用資源のトビイカを活かして利用する。マグロ類はイカが好物。イカを活かす技術が確立できれば、餌の改善につながり漁獲の増加が期待できる。漁業士との連携が重要。
タチウオ釣り漁法	10月～3月	来間島北沖	平良市漁協	平良市漁協 青壮年部	。深海1本釣りの漁場でタチウオが漁獲されるので漁法を指導する。 。水深300mの深海からタチウオが漁獲され重要資源になっている。宮古近海での調査を水産試験場と協力して実施し普及を図る。
2. 担い手育成に関する課題 青年指導者育成事業 (漁村青少年協議会)	6月、2月	宮古支庁 伊良部町	委員 "	漁協、市町村	。普及事業の実施要領では年3回以上開催することになっているが宮古地区は、年2回の計画。
(1) 漁業士会への対応	4月～3月		漁業士		。漁業士同士の情報交換並びに、漁協青壮年部の活動に対する助言協力を推進させる。

平成6年度普及活動計画

課 題	実施時期	実施場所	対 象	協 力 者	普 及 課 題 活 動 内 容
(2) 交流学習会	1月	平良市漁協	青年部漁場	リュウ・セロ社長・知名洋二	①海の村おこし運動について
(3) 技術交流会 (パヤオ直売店視察)	7月	沖縄市漁協 読谷漁協	伊良部町漁協 協青年部 平良市漁場 パヤオ部会	沖縄市漁協 読谷漁協	・第1回漁村青少年協議会で6月末から7月初めにかけて実施して下さるよう要望があった。
(4) 漁村青年・婦人活動実績発表大会	1月	水産会館	青年グループ 婦人グループ	普 及 員	・宮古地区はH6年は見送る。宮古地区は毎回参加しているので発表材料が今のところない、との理由で協議会でも見送ることを決定した。
(5) 水産教室	10月	翔南高校	中 学 生	翔南高校 平良市漁協 伊良部町漁協	・当初は追い込み網、パヤオ漁業の体験実習を計画していたが、青少年協議会で事故が起きたときの対応等、問題が多いとの意見がでた。 翔南高校が、1日体験入学を実施するので、その時に漁具製作・水産加工講習等を入れて水産教室を開催してはどうかとの意見があった。
(6) 新技術定着試験	6月～10月	伊良部町	漁 業 者	指導漁業士	・ヤケの発生する要因として昭和63年度技術改良試験でPH値が低下するとの報告があるので、それを元に、簡易試験紙で測定する。 魚倉温度を15度で設定すると肉ヤケはでないが、市場ではマグロ特有の赤身がでない等、クレームをつけられたとの伊良波指導漁業士の話があり、流通調査も実施する。

平成6年度普及活動計画

担当者名：八重山地区

課 題	実施時期	実施場所	対 象	協 力 者	普 及 課 題 活 動 内 容
普及活動指導 (1) 漁船漁業	周 年		八 重 山	青 壮 年 部	ソデイカ漁業、パヤオ漁業、マグロ延縄、刺網漁業の鮮度保持、流通に関する指導 。ソデイカの出荷形態（現在は殆どむき身ロール）の改良、ルート等についての検討を行う。 。ビンナガ、雑魚等の有効利用についての指導及び地域外出荷にひいての検討を行う。 。タチウオ漁業の漁具漁法、漁場に関する指導。 。タチウオ漁業の導入のための漁獲試験を行う。
(2) 養殖業	9月～12月 周 年		八重山漁協 八 重 山		モズク、ヒトエグサ、真珠母貝、魚類養殖についての技術及び漁場利用等の指導 。モズク養殖に係わる技術指導、流通加工対策の検討を行う。 。ヒトエグサ、真珠母貝養殖の事業化に向け、漁場利用調整に係る指導を行う。 。魚類養殖の事業化に向け、養殖技術、魚病対策、漁場利用調整等に係る指導を行う。
(3) 栽培漁業	5月～9月	与那国漁協 八重山漁協			シャコガイの放流、養殖についての技術指導、流通指導 。与那国町漁協青年部によるヒメジャコ放流の技術指導を行う。 。八重山漁協貝類研究グループによる シャコガイ養殖の技術指導及び流通対策指導を行う。
(4) 水産物加工	4月～10月	八重山漁協	青壮年部 婦 人 部		雑魚等の有効利用のための地域特産品の開発 。刺網、パヤオ等から漁獲され、定期的に販売が困難となる雑魚等を地域特産品として加工し、直売店において販路を確保する。 。直売店に食堂を設置し昼食、夕食メニューとして雑魚等を利用する。
(5) 水産物流通	周 年		八重山漁協		水産物卸売市場の健全な運営のための指導、検討 。八重山漁協では大物のみせりを行っているが、全量上場をめざし、関

課 題	実施時期	実施場所	対 象	協 力 者	普 及 課 題 活 動 内 容
学 習 会	H 7 年 1 月	石 垣 市	漁 協 青 壮 年 部		係者の意見調整を行う。 講演「自主的な広域資源管理の実践事例」 講師 兵庫県摂津地区における「ガザミをふやそう会」代表か漁協 長
技術交流会	7 月	大 宜 味 村	与 那 国 町 協 同 会 漁 青 年 部	大 宜 味 研 究 養 殖 グ ル ー プ	魚類養殖管理技術と経営魚類養殖に係わる基本的（稚魚の養成、段階別による投餌方法、水質管理、出荷）な管理技術及び出荷輸送等について、指導を受けるとともに意見交換を行う。
水産教室	8 月	石 垣 市	の 内 学 生		干潟の観察とシュノーケリングの取り扱い方 漁村の人が目的で開催されたもので干潟の観察をとうして「食物連鎖等、陸と海のかかわりについて干潟持りを楽しみながら水産に関する豆知識を会得する。
◎新技術定着試験	4 月～	与 那 国	漁 協		宮古地区では、昭和60年度から始められている。金武湾等での養殖結果（瀬底：1989）によると、河口よりの低比重（25%～30%）した海域ほど葉状部の生育が顕著であったことから、比川地区においても場所的に低比重（28%～31%）が見られることで技術移転をすることにより、モズクとはちがった養殖の展開が出来るのではないかと考え、同試験を実施する。
沿岸漁業改善資金		八 重 山 国 与 那 国	漁 協 漁 協		沿岸漁業改善資金の貸付事業は、一面、水産業改良普及事業における指導活動の経済的裏付けとなることを期しているから、下記の事項について積極的に取り組む。 (1) 貸付資金需要額調べ (2) 貸付事業計画・情報の整理、取りまとめ (3) 改善資金運営協議会等への助言

課 題	実施時期	実施場所	対 象	協 力 者	普 及 課 題 活 動 内 容
漁業公害等対策事業	周 年	名 蔵 湾			名蔵湾における赤土濃度を毎月測定調査し、汚染状況を監視する。各種工事等からの赤土流出等による漁業被害の情報収集する。 被害の発生原因の判定、試料採取、防除方法等についての指導を行う。 工事主体への汚染防止対策の申し入れを行う漁業被害発生時には直ちに関係機関へ報告する。 経済効果の実証の成果について調査する。 地域の特色及び性格に即した対策の円滑かつ適性な推進を図るため、積極的な推進体制を整備する。
沿岸漁場整備開発事業					